多元横浜読書会　　No.23－4－15

清水　淹（ひさし）

＜今回＞327回目　2023年4月24（月）14時～17時　602会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」 再読　p446、10行目このような　より

＜前回＞326回目（23－4－10）出席者10名

資料1）~~（2－－3－1）~~前回（23－4－10）のまとめ（清水）

A 報告　東戸塚の「日本古代史講座」の講師の河口様が突然亡くなられた。4月12（水）の開講の挨拶が聞けなかったのは残念だったとおもう。

~~が~~

B 先回の読書のまとめ

① 古代南朝鮮（韓国）に倭族がいたのではないか。の議論が始まった。任那日本府、安羅日本府の用字の存在は認めるが、日本書紀に登場するいわゆる百済3史（百済記、百済新撰、百済本記）の中にあるのみで、朝鮮の歴史書（3国史記、3国遺事）には存在しない。朝鮮半島南辺に居た倭族は、中国史書にある。

② 朝鮮の学者は南北両方とも、先の第 2 次世界大戦で日本軍に合併占領されたので、日本軍が古代 5，6 世紀にも韓国領に存在したことは認めない。しかも時代は下るが、3 国史記、3 国遺事には 7 世紀の統一新羅から引き継いだ資料は残っているが、統一新羅成立以前に、滅び去った百済の事はほとんど収集できていない。任那日本府、安羅日本府の史料も残っていない。高句麗好太王碑は明治20年代に発見され、それまで地中に埋もれていたので、存在さえ不明だった。しかも北方の高句麗には南朝鮮の倭族または列島の倭族が百済新羅を助けにやってきているという立場である。文中に加羅、安羅人戍兵の文字がある。

③ 日本の学者も先の第 2 次世界大戦の負い目から積極的に日本府の存在を主張できなくなっている。

④ 倭の 5 王たちが倭以外に、2代目珍は倭、百済、新羅、任那、秦漢、慕韓、六国諸軍事、安東大将軍倭国王の称号と支配権を主張しているのは、南宋書などに記載されているところである。有名な5代目武は上表文と共に、使持節倭、百済、新羅、任那、加羅、秦韓、慕韓、7国諸軍事、安東大将軍倭国王を要求した。多少の違いはあるが、一貫して南朝鮮に対する権益の主張は認められている。倭の5王たちはどこにいたか所在は特定されないが北部九州にいたことは卑弥呼以前から倭国を支配していたことから確かであろう。

⑤ 多利思北弧（600年代）は太宰府に拠点を構えたのだろうか。

⑥ 古田氏登場以前は、おかしいと思いながら一元史観以外を思いつかなかったから近畿日本の主権が古代南朝鮮にかかわっていたと想定せざるを得ない。又国威発揚の感情と諸矛盾がある（津田左右吉、井上秀雄など）ので古田説を避けるために北部九州の権力者だけでなく、各地方の有力者の鉄資源の貿易など個々に自主的に行っていたと現代の学者はいいだした。

C 読書　p442　三面の史料から　　初めて読むことが出来なかった。（

~~2~~ 5 月 15 日（月） 14 時から 17 時　601会議室

5 月 29 日（月） 14 時から 17 時　601会議室

6 月 12 日（月） 14 時から 17 時　601会議室